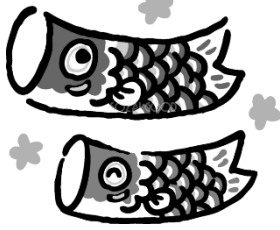


\*\*\*\*\*



# けやき

令和3年

# 5月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

\*\*\*\*\*

## さいたま市民の日

校長 渡辺 明

「風薫る五月」といわれる季節になりました。風が薫るとは、新緑の季節に青々と茂った樹木の間を風が吹き抜けていく様子を表したことばです。北小では、シンボルのけやきの若葉を吹き抜けて、教室へ爽やかな風が気持ちの良い空気を運んでくれます。この過ごしやすい気候に加えて、子どもたちが楽しみにしているGWも目前です。

保護者の皆さまには、4月後半の授業参観懇談会にご参会いただきありがとうございました。教室での参観は2分割、学年懇談会を体育館で行うという形でしたが、昨年のこの時期には登校も叶わなかったことを思うと、社会全体がコロナ禍に柔らかく対応し、少しずつ日常を取り戻していると捉えることもできます。しかし感染に関わる数字を見ると、まだまだ厳しい状況にあることは確かであり、今は、2学期に予定されている5年生の自然の教室、6年生の修学旅行をはじめとした各学年の教育活動が、実施できることを願うばかりです。安易に「慣れ」に流されないよう、この1年間の経験を活かして、感染拡大予防の取組を継続してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、話は変わりますが、今年から5月1日は特別な日です。平成13年の5月1日にさいたま市制がスタートしてから20年の節目ということで、この日が「さいたま市民の日」となりました。本来であれば学校も休業なのですが、(残念ながら)今年のカレンダーでは土曜日にあたります。また、来年のカレンダーでも日曜日にあたりますので、休業日となるのは再来年からです。



さいたま市民の日は、「郷土であるさいたま市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する日」として制定されました。

昨年度、3年生の社会の授業を参観していた折に、担任が「住みたい街ランキング」の上位に大宮が入っているという話をしていました。そのとき、子どもたちの反応が本当に嬉しそうで、やはり北小の子どもたちにとって、この大宮という街は大切なふるさとであり、その街が評価されるということは誇りに感じることなのだなと思いました。私は田舎育ちですので、ふるさとと聞けばつい、山があり川があり海があるというありきたりな風景を思い浮かべてしまいます。けれども、地域によって環境は多様です。駅に近くにぎやかなこの街が、子どもたちにとってはふるさとであり、その思いを私たちは大切にしていかなければなりません。

北小は開校93年目を迎えました。昭和4年に「大宮北尋常小学校」として大宮小学校から分離独立したのがスタートです。その後、戦時中には国民学校令により「大宮北国民学校」と名称が変わり、昭和23年に「大宮市立大宮北小学校」となりました。その当時は在校児童数が2千人を超えており、この敷地内でそれほどの人数の子どもたちが活動していたわけです。地域の方からその頃の様子をお聞きすることもあります。かなりの密度だったようです。

やがて市町村合併によりさいたま市が誕生し、平成13年に「さいたま市立大宮北小学校」となりました。校史によるとその年度末にインターネット接続工事が完了し、コンピューターでの学習がはじまりました。それから20年が経ち、今は一人一台のタブレットがネットに繋がる時代になりました。

保護者の方にも北小の卒業生は多くいらっしゃいます。母校への思いも親子で共有し、様々な思い出が家庭で話題になることもあるでしょう。時代は変わり、学びの内容や方法が変わっても、地域にとっての「ふるさと」「母校」であることの重みを感じながら日々の教育活動に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。